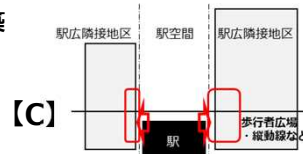


⑤ さっぽろ駅 大通駅

駅まち再構築
のポイント



● 駅まち再構築のポイント

課題

都心の回遊性を高めるため、季節を問わず安全で快適に移動・活用できる歩行空間・滞留空間が不足

- ・ 冬季も快適かつバリアフリーに通行できる空間や歩行者回遊性向上が必要



解決策

【C】 地下駅の駅前広場機能を駅空間・駅広隣接地区に拡張

- ・ 「地下歩行空間」の地上出入口を、隣接敷地に拡張し整備



交差点広場



隣接ビルと地下歩行空間の接続空間

出典：三井不動産プレスリリース

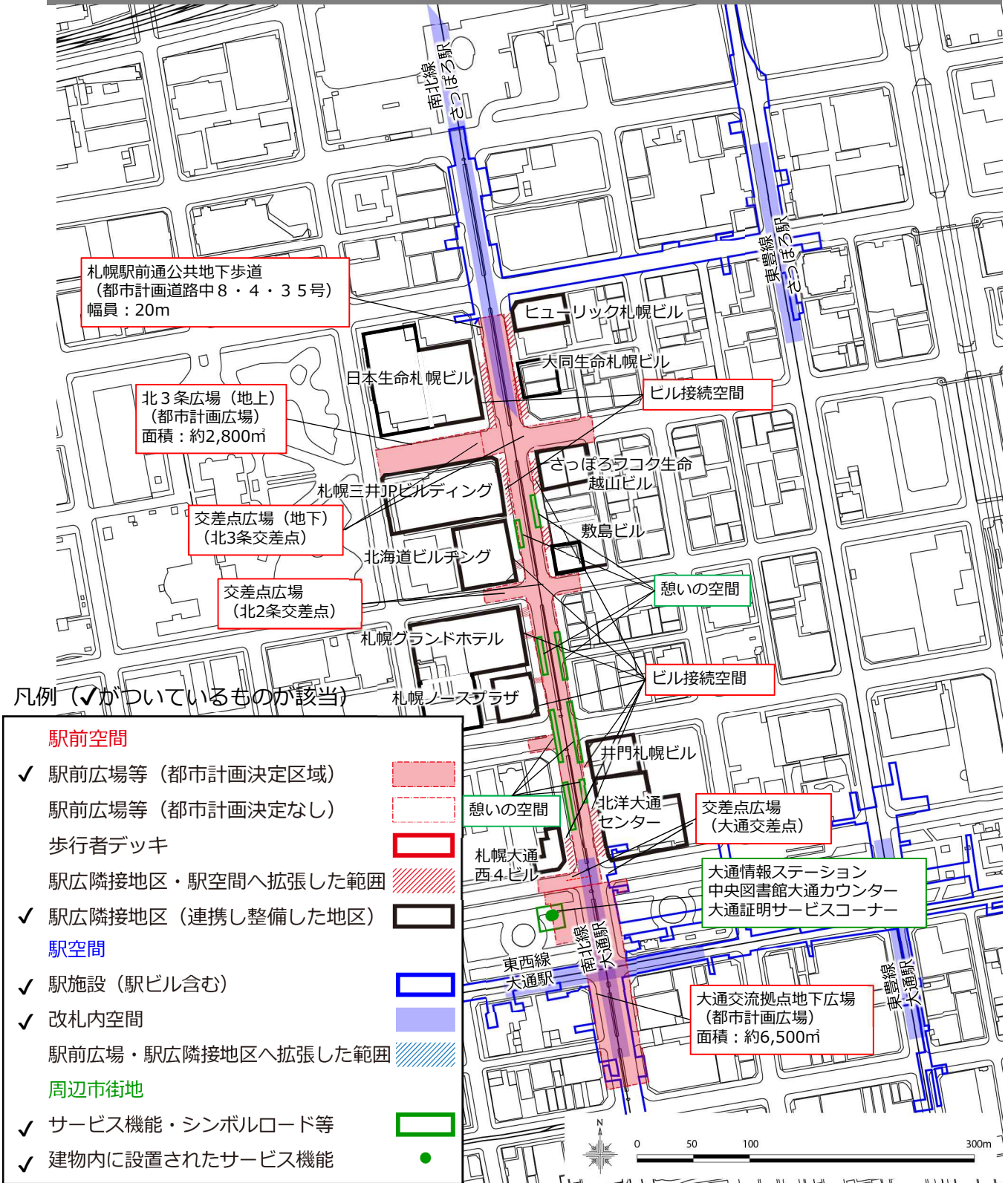


憩いの広場

● 「空間の共有」と「機能の連携イメージ」

機能	空間	駅まち空間				周辺市街地
		駅空間		駅前空間		
		改札内	改札外	駅前広場	駅広隣接地区	
交通空間	乗降機能 交通結節機能		地下歩行空間	乗降のための歩行空間	地上への出入口	
	交流機能 防災機能	地下歩行空間の機能を隣接地区に拡張		イベント空間 一時滞在空間	敷地内溜まり空間	
環境空間	都市環境 形成機能			モニュメント	吹き抜け空間 自然採光	
	サービス機能					

● 駅周辺地図



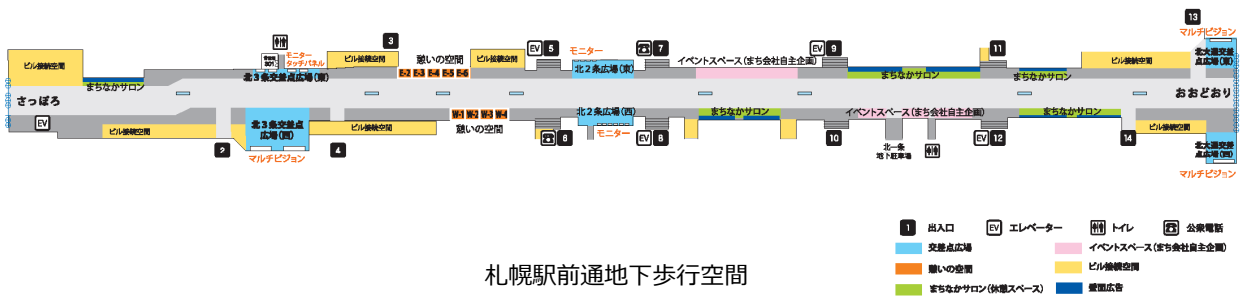
● 基礎情報

所在地	北海道札幌市	自治体人口	197.0万人 (2020年2月)
乗り入れ路線	3線 ・札幌市営地下鉄3線 (南北線、東豊線、東西線 (大通駅) のみ) ※JR札幌駅には以下が乗り入れ ・JR北海道函館本線、千歳線、札沼線	乗降客数	18.0万人/日 (国土交通情報 駅別乗降客数データ2017年度)

● 駅まち再構築の実現における工夫

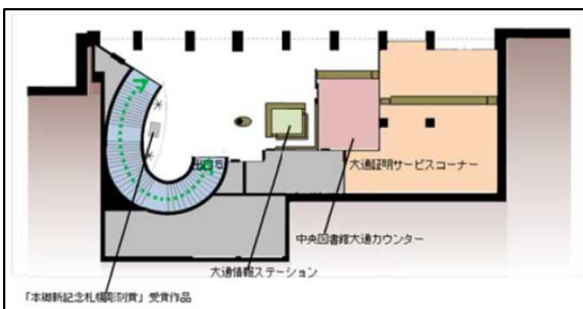
■ さっぽろ駅～大通駅をつなぐ「地下歩行空間」から地上へ至る出入口を、官民連携により隣接敷地に整備することで地上と地下の回遊性を向上させた。

- 地下鉄さっぽろ駅～大通駅を結ぶ区間に、地下歩行空間および道路と広場の兼用工作物としての地下広場が整備されたが、地上出入口の一部は、立体道路制度の活用および沿道ビルへの取り込み等により、隣接地区の敷地内に整備されている。
- 事業者による接続空間の整備や、地区計画における出入口の取り込みに対する容積率緩和など、官民連携で地下と地上、沿道ビル間の回遊性向上に取り組んでいる。

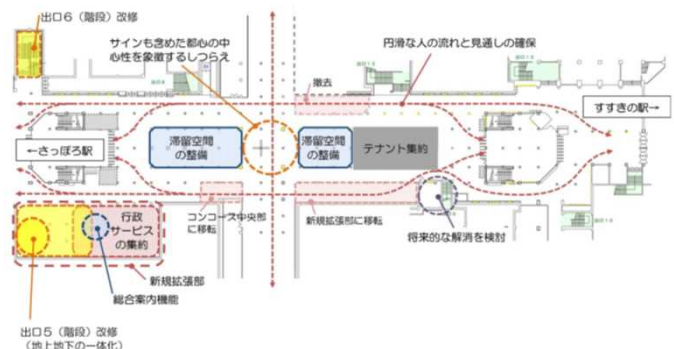


■ 札幌駅前通と大通との交流部地下（地下鉄南北線大通駅コンコース内）について、地下鉄南北線大通駅を中心とする地下歩行空間と建物地下階が一体となる整備を行った。

- 歩行者通行量の増加や、歩行者動線と施設利用者の待ち行列の交錯による混雑を解消し、円滑な人の流れと見通しを確保するため、コンコース内に点在する行政サービス施設を、新規拡張部に移転、集約し、民間テナント施設を、通行に支障をきたさないコンコース中央部へ移転、集約した。



大通交流拠点内に設置された行政窓口等
出典：札幌市「大通交流拠点地下広場整備基本計画」



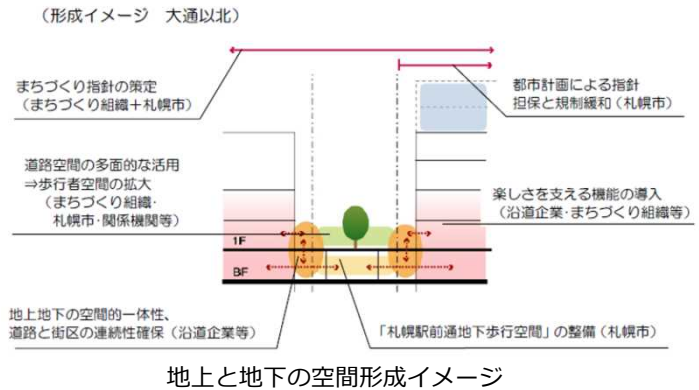
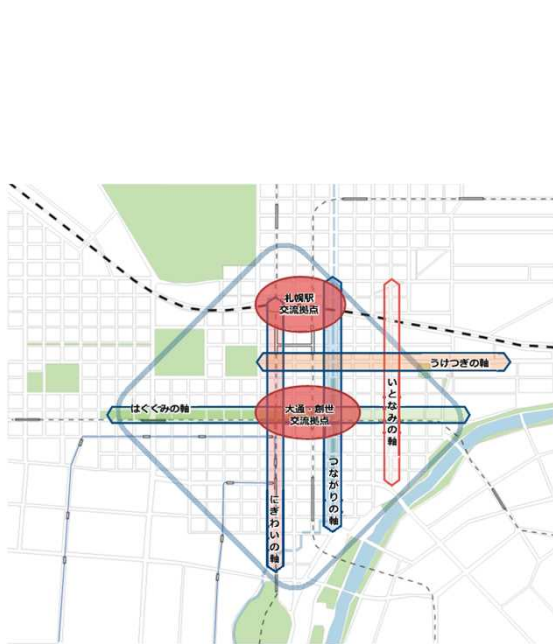
大通交流拠点地下広場
出典：札幌市「大通交流拠点地下広場整備基本計画」

事業の概要

札幌駅前通地下歩行空間整備事業		大通交通拠点地下広場整備事業	
整備内容	【1】 地下歩行空間の整備 【2】 イベント開催・災害時の一時滞在空間として機能する広場の整備	整備内容	【1】 大通駅コンコースの改築により地下広場（溜まり空間）を整備 【2】 民間テナント施設や行政サービス施設を移転、集約
整備主体	国土交通省、札幌市	整備主体	札幌市（社会資本整備総合交付金活用）
管理主体	【1】 札幌市 【2】 札幌駅前通まちづくり株式会社（指定管理）	管理主体	札幌市

● 上位計画

- 都心まちづくり計画（2002年策定、2016年に第2次都心まちづくり計画を策定）
- 都心部において求められている高次な都市機能の集約や魅力ある都市空間の創出など、札幌の顔にふさわしいまちづくりを重点的に進めていく上での都心まちづくりの指針を示している。



▶ 歩行者空間ネットワークの形成

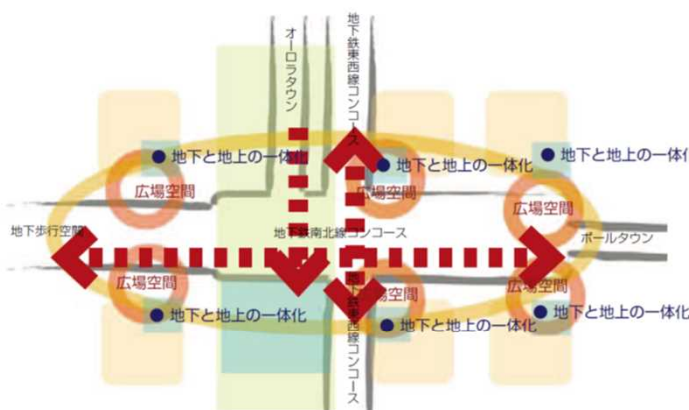
〔取組み〕	〔推進主体と役割〕
○「札幌駅前通地下歩行空間」の整備（大通以北）	札幌市 ：「札幌駅前通地下歩行空間」の整備
○沿道建築物の更新・改修による歩行者空間ネットワーク（地上/地下）の形成	沿道企業等 ：まちづくり指針に即した事業展開 札幌市 ：事業に対する支援
○地上歩行者空間の拡充	沿道企業等 ：道路・街区間での連携確保 札幌市 ：歩行者空間の拡充

役割分担のイメージ

出典：都心まちづくり計画2002

■ 大通交流拠点まちづくりガイドライン（2007年策定）

- 「都心まちづくり計画」に基づき、札幌市、隣接する民間ビルの地権者等からなる検討会により「大通交流拠点まちづくりガイドライン」が策定された。
- 建替え時に配慮すべき事項として、地下及び地上低層部の機能構成、公共施設（地上、地下）と一体的に広場空間を形成する敷地内の空間構成、優れた景観形成のための建物形態のあり方等が整理されている。



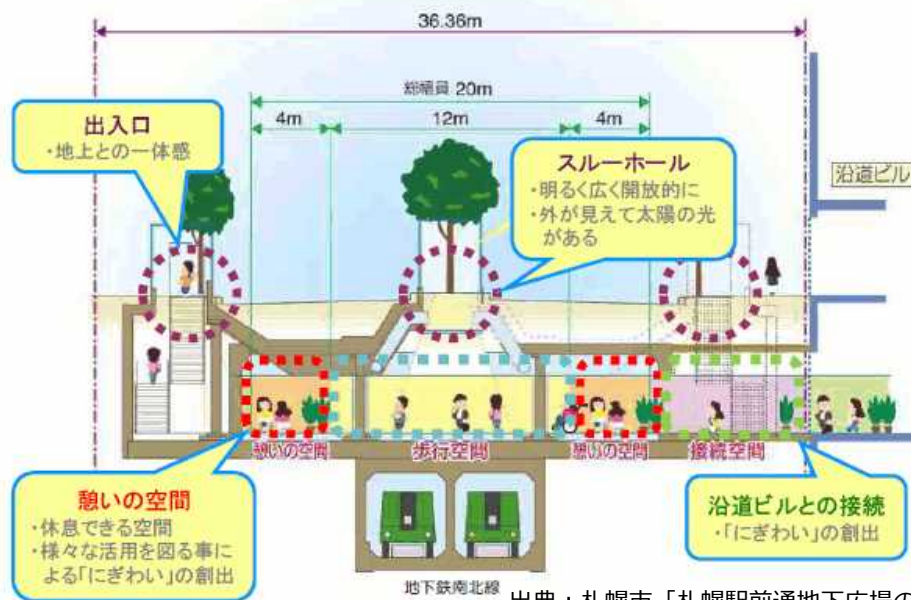
① 地上と地下を結びつける空間、装置を設置するよう努める
広場空間は地上と地下のにぎわいを一体化させるものとなるのが大切です。そのためには、アトリウム広場、サンクンガーデン、吹き抜けなど、地上と地下を結びつける空間を設けたり、地下歩行空間から地上の公園などにアクセスするのに使いやすい位置に、階段、エレベーター、エスカレーターなど地上と地下を結びつける装置を設ける事が求められます。



敷地内の空間構成・建物形態

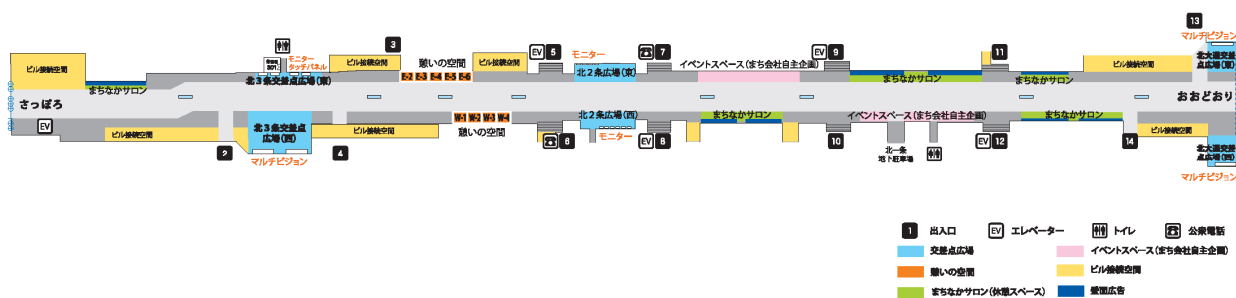
コラム エリアマネジメント団体による管理・運営

- 札幌駅前通地下歩行空間は、中央部の歩行空間（12m）の両側（憩いの空間など）を「札幌駅前通地下広場条例」により「札幌駅前通地下広場」として位置付け、道路と広場の兼用工作物として民間管理としている。



出典：札幌市「札幌駅前通地下広場の概要」

- 「札幌駅前通地下広場」は、指定管理者制度を取り入れており、エリアマネジメント団体である「札幌駅前通まちづくり株式会社」が管理を行っている。
- 下図に示す交差点広場および憩いの空間は、1回単位でのイベント等への利用が可能となっており、指定管理者である札幌駅前通まちづくり株式会社が運営している。
- 札幌駅前通まちづくり株式会社では、自ら広場を活用し積極的に自主事業を実施するとともに、地上部の広場や沿道ビルとの連携を通じて、地上地下が一体となったにぎわいづくりを進めている。



交差点広場



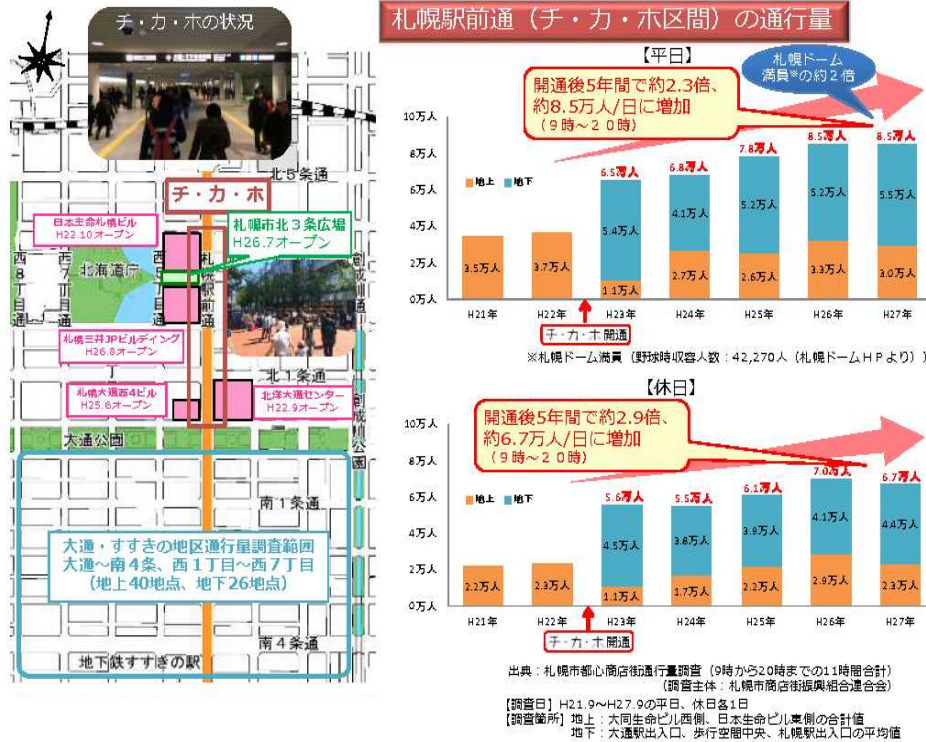
憩いの空間

出典：札幌駅前通まちづくり株式会社「札幌駅前通地下広場」

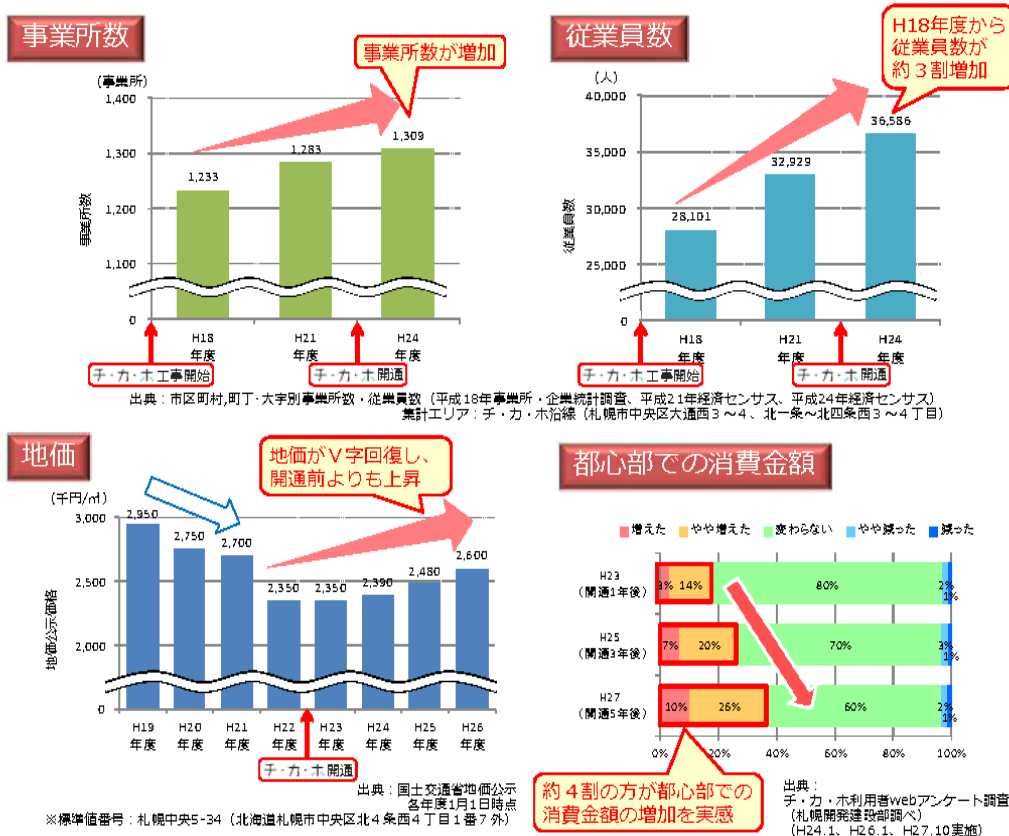
コラム 地下歩行空間整備による効果

- 札幌駅前通地下歩行空間の開通による効果については通行量の増加だけでなく、沿道事業所数や地下などへの波及効果があった。

歩行環境の改善による通行量の増加



沿道への波及効果



出典：札幌市「札幌駅前通地下歩行空間の開通から5年後までの歩行者通行量と効果」

